平成２８年７月１日改訂

天然素材 100%ほんわか空気の塗り壁材

HARIMA KABE

はりまかべ

施工要領書

監督・大工・左官用

Tel 079-428-0054　Fax 079-428-0049　E-Mail info@k-lumber.com

有限会社 岸本材木店

■ 製品概要 ■

本製品は粉末状です。清水で練って下さい。

着色は色粉を使用します。

・内容量 ・・・・・・・・・・ 10kg／袋

・施工可能面積・・・・・・・・ 約 6.5 ㎡／袋

・標準色 ・・・・・・・・・・ プレーン （色粉不使用）

・Uカラー 6 色濃淡（12 色）・・・ シトラスイエロー アクアブルー リーフグリーン
スイートオレンジ シェルピンク ストーングレイ

【安全上の注意点】

・本製品は強アルカリ性です。施工する際には粉が鼻や目に入らない様に、防塵マスクや防塵メガネを着用して下さい。
万一、目に入ってしまった場合、直ちに清水で洗い、専門医の診察を受けて下さい。

・本製品は吸着力が非常に強く、手や腕等の皮膚に付着すると脂分も吸着します。
施工の際はゴム手袋を着用する等、直接皮膚に触れない様、対策をして下さい。
付着した場合は早めに水で洗い流して下さい。

【保管方法】

湿気が少なく、直射日光が当たらない場所で、パレット等の上に置き、雨や水の影響が出ない場所で保管して下さい。
固いものや尖っているものは、袋が損傷する可能性があるので上に置かないで下さい

【廃棄方法】

各自治体の廃棄方法に従い、不燃性廃棄物として処理して下さい。
水や空気に触れると硬化します。排水管等には流さないで下さい。

【目次】

下地施工要領 3P

養生施工要領 5P

塗り施工要領 7P

アフターメンテナンス要領 10P

リフォーム施工要領 12P

下地施工要領

※お引き渡し後の壁面クラックの発生を極力防ぐためにも、以下の要領を守っていただく事が大切です。

■重要項目■

① ヌキ・胴縁下地にして下さい。ヌキ間隔は 250mm 以内で施工して下さい。

・ヌキ、胴縁を打たない場合、クラックが起こるリスクが高まります。

② 下地には石膏ボード（平）の 12.5mm の使用をお勧めします。

・石膏ボード以外を使用した場合、シーラー又はプライマー処理をする必要があります。

・目地部分は平ボードを突き付けで施工して下さい。
V ボードを使用する場合、目地処理（※1）をする必要があります。
又、隙間があれば目地処理をする必要があります。
目地処理部分はクラックが発生する可能性が高く、仕上げ面が色ムラになる可能性もあるので、極力下地同士はピッタリと突き付けで施工して下さい。（※2）

・石膏ボードは千鳥貼りして下さい。
目地部分が十字にならないので、クラックが発生するリスクを減らすことが出来ます。

・出隅はなるべく石膏部分が露出しない様に施工して下さい。
露出した場合は壁材施工時にシーラー処理（※3）をする必要があります。

・石膏ボードが欠損等で石膏部分が露出している場合もシーラー処理をする必要があります。
又、欠損等で大きく凹んでいる場合、目地処理をする必要があります。

・入隅は石膏ボード同士をしっかり密着させ、隙間が出来ない様に施工して下さい。

・開口部の角部で石膏ボードが切れない様に施工して下さい。（※4）

・吹き抜けがある場合、胴差上で石膏ボードを継がないで下さい。

③　ビスピッチは 150mm 以下の間隔で打って下さい。

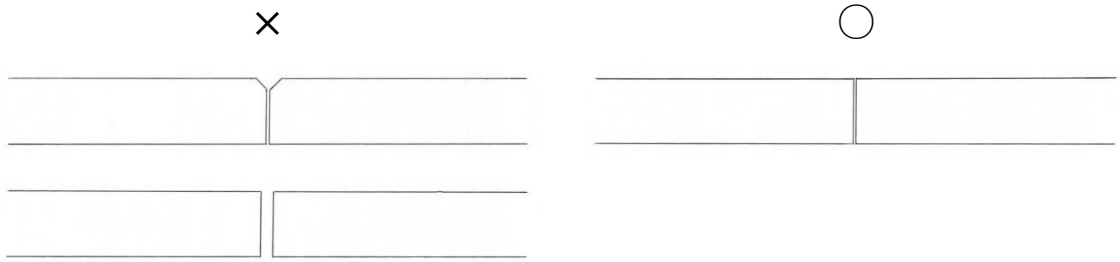
・ビス頭が出ていたり、極端に入っている事の無い様打って下さい。仕上げ面に影響します。

・ビスはステンレス製を使用して下さい。

釘、タッカーは使用しないで下さい。

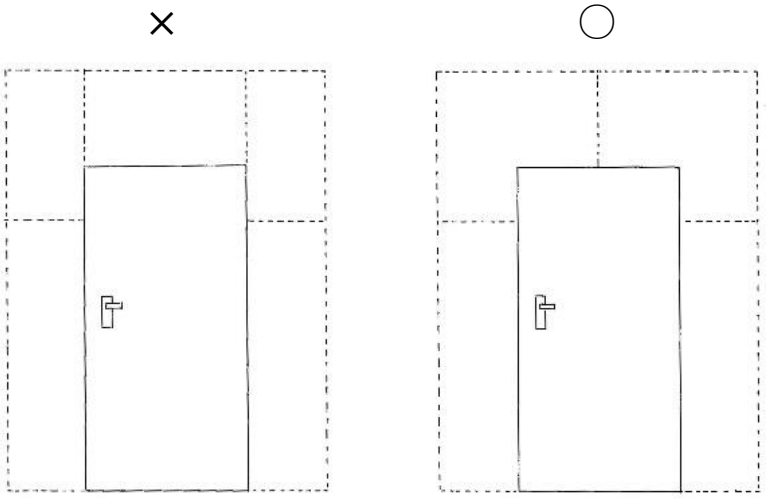
(※1)　本材料をシーラー2 倍液で練ったものを詰めて下さい。奥までしっかりと捻じ込む様に入れて下さい。

(※2)　下図参照



(※3)　2 倍液を刷毛で塗って下さい。基本的に石膏露出面がある場合はこの処理をして下さい。

(※4)　下図の様に施工して下さい。角にボードが重なるとクラックが入りやすくなります。窓も同様です。



養生施工要領

※仕上がり精度は養生で決まると言っても過言ではありません。しっかりと養生して下さい。

■重要項目■

① 床、棚、備え付け家具等、塗り材料が付着する可能性のある場所は、マスキングかマスカーテープ等で養生して下さい。

・特に無垢材は本材料が付着すると変色します。しっかりと養生して下さい。

② 巾木、廻縁、備え付け家具、ビニールクロス等、石膏ボードとの取り合い部分をマスキングテープで養生をして下さい。

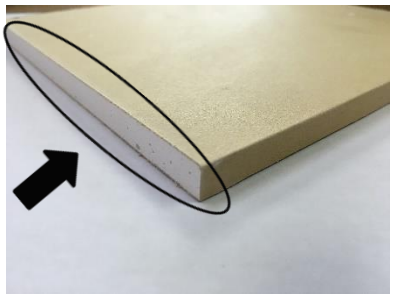
・塗り厚を 2.5mm とする場合、2.5mm～3mm 程石膏ボードから離した部分に貼って下さい。

・接着力の弱いマスキングテープをお勧めします。（※1）
糊が強いマスキングテープを使用すると、無垢材の場合ささくれる可能性があります。
一度軽く貼ってみて確認してください。同じ理由でビニールクロス上に貼る場合も注意して下さい。

・もし無垢材が変色した場合、綺麗なスポンジにお酢を付けて、軽くその部分に当てて下さい。
何度か当てると比較的目立たなくなります。やりすぎると逆に変色するので注意して下さい。

③ 下地状態を確認（※2）し、目地、入隅、出隅部分は全て、寒冷紗テープを貼って下さい。重なっても構いません。

・石膏ボード小口の石膏が出ている石膏ボード突き付け部分（横目地、ボードをカットした小口）にシーラーの 2 倍液を刷毛で奥までしっかり塗り付ける事をお勧めします。



突き付け部分がしっかりとついていない場合、仕上がりに乾きムラが起こる可能性があります。

シーラー原液だと、粘度が高すぎて奥までしっかり塗れない場合があるので、2 倍液にして使用して下さい。

・寒冷紗テープは幅 50mm 以上のものを使用して下さい。（※3）

・出隅、入隅に貼る寒冷紗テープは幅 100mm をお勧めします。

・塩ビコーナーは使用しないで下さい。

・石膏ボード欠損部等の材料詰め処理した部分も寒冷紗テープを全面に貼って下さい。

・開口部周りにも寒冷紗テープを貼る事をお勧めします。（※4）

開口部開閉時の衝撃でクラックが起こる可能性があるので、極力そのリスクを回避するための処置です。

(※1) Scotch 製　型番 79SX　等

(※2) V ボードジョイント・目地突き付け不良・ボード間の隙間・石膏ボード欠損部（石膏剥き出し）・極端に深いビス穴・ビス打ち間違え穴等がある場合は、寒冷紗テープを貼る前に、本体をシーラーで固練りした材料をコテで詰めて下さい。

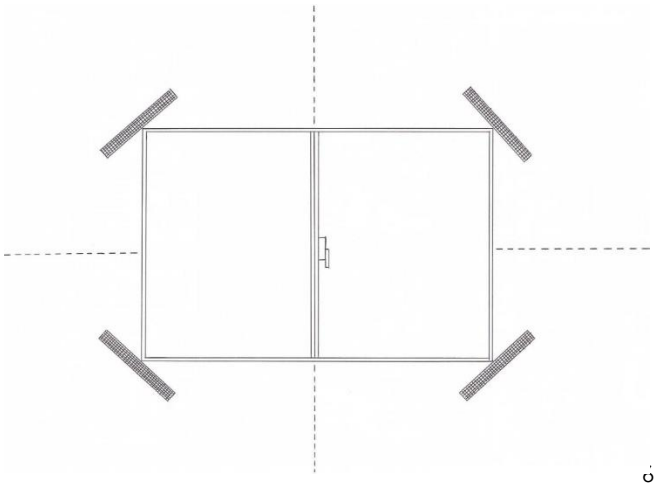
凹凸が出来ない様に、その他の部分に付いた材料は削ぎ落として下さい。

大きく開いたボードジョイントや隙間がある場合、ポリエチレン製のバックアップ材を隙間無く詰め、その上から本体をシーラーで固練りした材料をコテで詰めて下さい。

パテは、仕上げ面が色ムラになるので使用しないで下さい。

(※3) 吉野石膏製　タイガーG ファイバーテープ　等

(※4) 枠の角に寒冷紗テープを斜め張りして下さい。下図参照



塗り施工要領

※Ｕカラーを入れる場合は、施工環境に配慮が必要です。

特に冬季は白華発生や硬化不良のリスクが高いので注意して下さい。

■重要項目■

① 本体１袋（10kg）につき、6.2ℓ加水して下さい。撹拌機でよく練りこんで下さい。固い場合は少しずつ加水し、調整して下さい。

・加水が多すぎると、厚みが付け辛く、乾燥後にテカりが強く出る事があります。

・練りこみは５分以上、練り玉が無くなり滑らかになるまで練って下さい。

・練り置きする事をお勧めします。10 分以上寝かせて下さい。
練り置きする事で、コテ離れが良くなり、塗りやすくなります。
塗る時には少し練り返してから施工して下さい。

② Ｕカラーを使用する場合、冬期の施工は極力避けて下さい。

・気温が 5℃以下になると、Ｕカラーを使用する場合、白華（※1）が発生する可能性が非常に高くなります。
極力施工は控えて下さい。

・もし施工する場合、下記の要領で施工する事で、白華の可能性を下げる事が出来ます。

・施工時、暖房機で室内温度を上げる。（※2）

・昼～夕方の比較的気温が高い時間帯に何度も換気し、室内の湿気を逃がす。

・夜通しデシカント式除湿器をかけ、室内温度の低下を極力防ぐ。

・石油系ストーブ等、火災の原因となり得る暖房機は使用しない。

③　Ｕカラーを入れる場合、本体 1 袋（10kg）につきＵカラー1 袋を入れ、十分に空練りをして下さい。（※3）その後加水して撹拌機で十分に練りこんで下さい。

・色は 6 種類、濃淡はライト（淡色）とミディアム（濃色）の 2 種類あります。（計 12 色）

・冬期の低温の水（5℃以下）を使用すると、色飛びする可能性が高くなります。
投込みヒーター等を使い、15℃前後まで温めて下さい。

・夏期の温い水（25℃以上）で練りこみをやり過ぎると、材料が熱を持ってしまい、組成に影響が出る可能性があります。
練っている容器を触りながら、熱を持たない様に注意して下さい。

・全体に色が馴染む様によく撹拌させてください。

④　基本的には塗り厚 2.5mm 一発で仕上げて下さい。（※4）水引きが早く感じる時は一度下擦りをして（1mm 程度）から仕上げを行って下さい。

・本体 1 袋（10kg）で約 6.5 ㎡施工できます。（※5）材料をしっかり用意してから施工して下さい。

・天井塗りがある場合は壁より先に天井を施工して下さい。
その後は入隅で分けた面ごとに塗っていく事をお勧めします。（※6）
Ｕカラーを入れた場合は部屋の壁面を時計回りに塗り進めていく事をお勧めします。

・入隅は外丸面引コテを引く事で、入隅を真っ直ぐにすると共に、クラックの発生予防になります。

・出隅は角度に合わせたアールサイズの内丸面引コテを引く事をお勧めします。
出隅が真っ直ぐ通り、綺麗に仕上がります。

・有機塗り壁材の様に生乾き面に水を霧吹きでかけてまた触るという事は出来ません。
一度仕上げた面は触らないで下さい。

・施工が終わった面から、壁周りのマスキングテープを剥がし、薄手の仕上コテを使い、5mm 程度の押さえ幅でやさしく押さえる事をお勧めします。
テープを剥がした時、場所により材料が反り返るので、そこを押さえる事で巾木、材料間のクラックの発生を極力抑える事が出来、仕上げも綺麗になります。（※7）

⑤　全ての施工が終わったら、各部の養生を剥がして下さい。

・完全に乾くまで夏季なら約 1 日、冬季なら 2～3 日程度必要です。

・生乾き状態の壁に触れてしまうと手直し出来ません。乾燥中は十分に気を付けて下さい。
もし触れてしまった場合は、もう一度その面を塗り直すか、完全に乾いてから補修して下さい。

・Ｕカラーを入れて施工した場合、夜間又は明け方の室内の気温が 5℃以下になると、乾燥時に白華が発生する可能性が非常に高くなります。（※8）

・施工した後日、室内換気し湿気を抜いて下さい。
窓周りに多くの飽和した水が溜まります。注意して下さい。

(※1)　色が飛び、真っ白になってしまう現象の事。

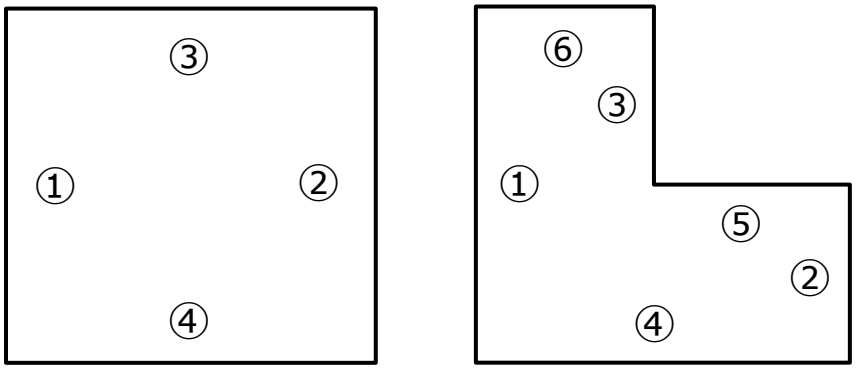
(※2)　暖房機はデシカント式除湿機を使用する事をお勧めします。
除湿をし、室温も上げてくれます。
二酸化炭素と本体の石灰が反応し白華が起こるため、二酸化炭素を発生させる暖房機、除湿機は使用しないで下さい。

(※3)　空練り後、後の補修のために少量をビニール袋等に小分けし、保管する事をお勧めします。

(※4)　最低でも 2mm 以上の塗り厚で仕上げて下さい。
2mm 以下だと寒冷紗テープ跡やビス穴跡等が見える可能性があります。

(※5)　塗り厚、テクスチャによって施工可能面積は変わります。あくまで目安として下さい。

(※6)　入隅クラックを極力抑えるための手順です。手順例は下図参照。（部屋を平面で見た見取り図）

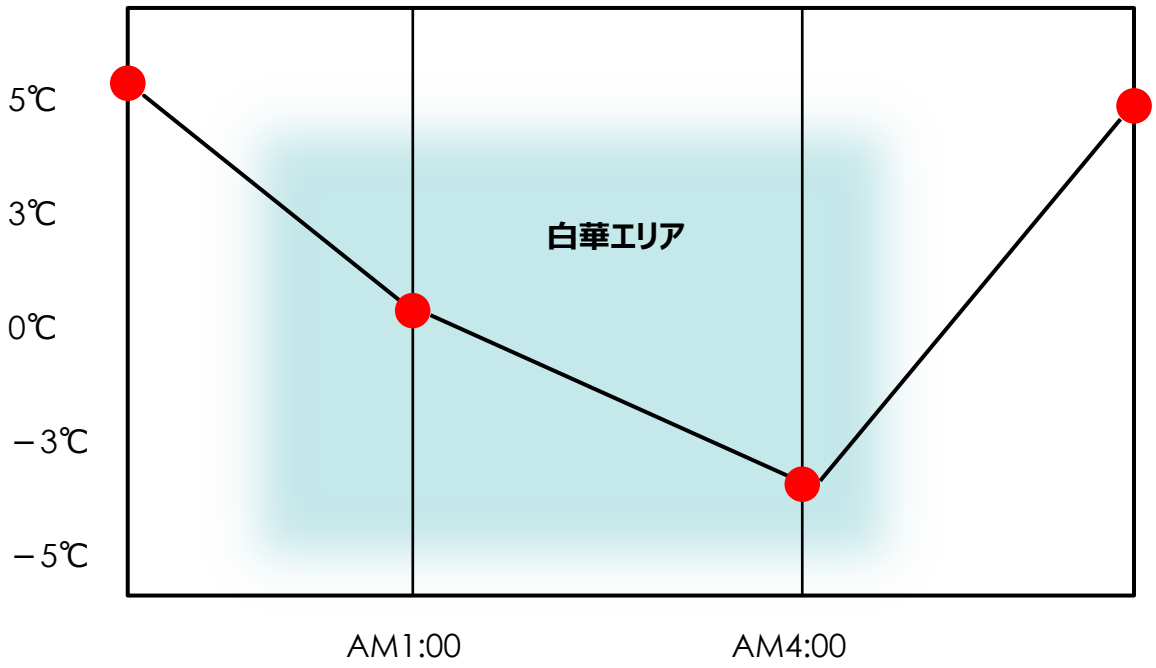


番号の様に対面ずつ塗り進めて下さい。入隅で区切り、一面飛びで施工します。

Ｕカラーを入れた場合、入隅に外丸面引コテを引く時に、時間が経っていると色が変わる可能性があります。時計回りに順に塗り進めながら入隅処理も同時に行って下さい。

(※7)　Ｕカラーを入れた場合、押さえる時間が空き過ぎるとその部分が変色する可能性があります。
面ごとに仕上がったら時間をあまり置かずに押さえて下さい。入隅処理も上記の通り同様です。

(※8)　冬季は深夜 1 時頃から気温が下がっていき、4 時頃にピークになります。下記図参照。
5℃以下になるとケイ酸塩等が生成され、炭酸カルシウムに変化し白華の原因になります。



アフターメンテナンス要領

※キズ、汚れ、クラックは完全に元に戻す事は不可能ですが、適切な処置をする事で目立たなくすることが出来ます。

■重要項目■

① ヘアクラックの補修は、本体の粉を指で詰め、ヘアクラック部分以外に付着した粉を掃い、水を霧吹きで吹きかけて下さい。（※1）

・近すぎる場所から霧吹きをかけると、その勢いで詰めた粉が出てしまう事があります。
少し距離を離したところから霧吹きをかけて下さい。

② Ｕカラーを使用した壁の場合のヘアクラックや、欠けたりした部分の補修は、粉を練ったものをコテでつけて下さい。

・補修部分の周りは、余計な材料がついてしまわない様に壁面に直接マスキングテープで養生して下さい。

・ヘアクラック補修の場合は、材料は緩めに練って下さい。

・欠け等の補修の場合は、材料は固めに練って下さい。

・補修後多少の継ぎ目、色ムラは残ります。

・補修をする場合、当社より補修材料を郵送します。色、濃淡をお伝え下さい。

③ 壁に付着した汚れ等は、霧吹きと消しゴム等で目立たなくすることが出来ます。

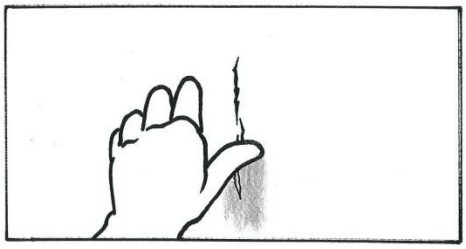
・醤油等の液体が付着した場合、その部分に定期的に水を霧吹きで吹き付けて下さい。
完全に消える事はありませんが、定期的に行う事で、徐々に薄くなり目立たなくなります。
壁面にキズができたり、汚れが広がる可能性があるので、拭き取らないで下さい。

・鉛筆やカバン等を擦った跡がある場合、消しゴムで目立たなくすることが出来ます。

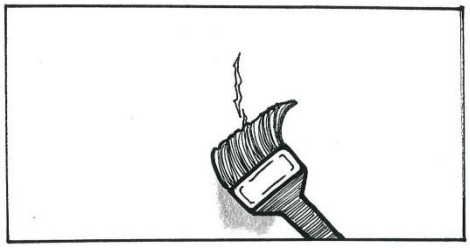
・油汚れは、漂白剤を水で薄め、綺麗なスポンジにつけて何度も押し当てて下さい。

(※1)　下図参照

① ヘアクラックに本材料を指で押し込みます。隙間の無い様に入れて下さい。



② ヘアクラック内の粉が出ない様に、周りに付いた材料をやさしく刷毛や指で落として下さい。



③ 水を霧吹きでかけて下さい。ある程度の距離を離した所から吹き付けて下さい。

リフォーム施工要領

※下地状況によって異なる処理をする必要があります。現状を十分に確認して施工計画を立てて下さい。

■重要項目■

① ビニールクロスが貼ってある場合は、剥がしてから施工して下さい。

・ビニールクロスの上から施工した場合、本体重量や水分でビニールクロス剥離する可能性があるので、極力ビニールクロスは剥がす事をお勧めします。

・ビニールクロスを剥いだ後、薄紙も極力剥がして下さい。
薄紙を残すと、水分を吸って浮いてくる事があります。（※1）その後シーラー処理（※2）をして下さい。

・ビニールクロスを剥がさない場合は、浮きを防止するために全面を細かくタッカーで止め、シーラー処理をしてから施工して下さい。

② ビニールクロス以外の場合は、下記の要領で施工して下さい。

・塗り壁の上に重ね塗りする場合、コテやヘラで極力起伏を削ぎ落としてからシーラー処理をして下さい。

・聚楽の上に塗る場合は、コテやヘラで聚楽を削ぎ落としてからシーラー処理をして下さい。

・合板の上に直接塗る場合は、合板のアクが仕上げに浮いてくる可能性があるのでプライマー処理（※3）をお勧めします。シーラー処理よりも、プライマー処理の方がアクを防げる可能性は高いです。

・その他の下地に施工する場合は弊社に御相談下さい。

(※1) 浮いてきた部分は、カッターで浮いてきた部分を切り取り、塗り直して下さい。

(※2) リフォームのシーラー処理は、2 倍液を全面にローラーで施工します。
木部等の養生をしてから行って下さい。

(※3) シーラー処理と同様に、周りの養生を行い、換気をしながら施工して下さい。